

所属	心理学研究科 臨床心理学専攻 修士課程	修了年度	2024 年度
氏名	横田 萌彩	指導教員 (主査)	杉本 希映 教授

論文題目	看護師の完全主義が服従的コンパッションを介して専門職 QOL に及ぼす影響
------	---------------------------------------

本文概要

【問題と目的】 Stamm (2010) は、ケアすることでバーンアウト、二次的トラウマティック・ストレス、共感満足が生じ、支援者の生活に多大な影響を及ぼすと指摘し、この 3 つの状態を総称した専門職 QOL を提唱した。看護師は、バーンアウト、二次的トラウマティック・ストレスに陥りやすく (Kaur et al., 2018)、それにより患者、支援機関に不利益が生じる (Ducharme et al., 2008; Perkins & Sprang, 2013; Jun et al., 2021; Maslach et al., 1997)。本研究では、専門職 QOL の予測要因として、自己志向的完全主義、社会規定的完全主義、服従的コンパッションに着目した。支援者の自分の理想のために他者を支援する傾向 (Perkins & Sprang, 2013)、看護師は患者らから「思いやりがある」などの理想像を求められていること (Figley & Abendroth, 2011)、看護師の他者に重きを置く傾向から (平木他, 2002)、看護師は自己志向的完全主義と社会規定的完全主義の高さにより、服従的コンパッションが促進されることが予想される。服従的コンパッションが高いと、共感が阻害されることから (Gilbert et al., 2017)、服従的コンパッションの高さにより、共感満足が低下し、バーンアウト、二次的トラウマティック・ストレスが増加すると予想される。仮説として、自己志向的完全主義、社会規定的完全主義の傾向が高いと、服従的コンパッションが促進され、それにより、バーンアウト、二次的トラウマティック・ストレスが増加し、その一方で共感満足が減少すると考えられる。

【方法】 看護師資格を有し、看護師として勤務している者に、オンラインで無記名式質問紙調査を行った。有効回答は 218 名であった (男性 33 名、女性 185 名、平均年齢 = 41.72, $SD = 9.54$)。調査内容は、(1) フェイスシート (年齢、性別、婚姻状況、最終学歴、現在の勤務先で活用している看護師資格の種類、看護師経験年数、現在の勤務先および部署、現在の週平均の労働時間)、(2) 服従的コンパッション (浅野, 2024)、(3) 日本語版 MPS (大谷・桜井, 1995) の自己志向的完全主義因子と社会規定的完全主義因子、(4) ProQOL-JN (福森, 2018) であった。

【結果と考察】 パス解析の結果、服従的コンパッションを介して、自己志向的完全主義は、共感満足、二次的トラウマティック・ストレスを減少させ、一方で、社会規定的完全主義は、共感満足、二次的トラウマティック・ストレスを増加させることが示唆された。仮説と異なり、自己志向的完全主義から服従的コンパッションに負のパス、服従的コンパッションから共感満足に正のパスが示された。自己志向的完全主義は、自分が目標の設定や評価の基準である一方で (Hewitt & Flett, 1991)、服従的コンパッションは、他者の評価が基準である (Catarino et al., 2014)。このような基準の違いから、自己志向的完全主義は服従的コンパッションを抑制させると考えられる。共感満足も二次的トラウマティック・ストレスも高い人は、自分と他者の体験が混在し、他者のトラウマを自分のことのように感じるという特徴がある (Stamm, 2010)。このことから、服従的コンパッションによって、自他の境界が曖昧になり、他者のトラウマを自分のことのように感じ、二次的トラウマティック・ストレスが高まるが、一方で、他者に貢献できているという達成感を感じ、共感満足が高まると考えられる。本研究の結果から、服従的コンパッションへのアプローチが、看護師の専門職 QOL の向上に有用である可能性が考えられる。またその方法として、純粋なコンパッションを高め、コンパッションの目的を適応的なものにする、セルフ・コンパッションを促進させ、問題と距離をとる、自己批判を低下させることが有用である可能性が示唆された。